

2015. 4. 6～9 利尻長浜ダイレクト

L 森 海人 M 高橋 岳

4月5日、北稜クラブ総会の後、稚内へと向かった。

6日から12日までで、利尻の長浜ダイレクトから東稜を下降、東北稜を登り北稜を下山するという計画だった。

週間天気予報では6日からは低気圧が通り、その後冬型の気圧配置、寒気が入るということで、かなり不安ではあった。プレでは全日程晴れており、悪天の中登る経験を積んでいなかったからだ。ともあれ、稚内の防波堤ドームにテントを張り、6日の朝に利尻行きのフェリーに乗り込んだ。フェリー内では、お互い顔を見ると引き締まっているのが分かる。荷物は軽量化したつもりだが重いような… だが、結局は背負わなければならないのだ、出発前はいつも以上にナーバスになる。ターミナルからはバスで移動となる。葉橋まで1500円ちょっと。



ここから長い長い大空沢を歩いていく。大空沢はガスで、歩くと暑いが、停まるととても寒い。スノーモービルのトレースを利用しながら長浜尾根に乗り、テン場まで高度を上げていく。テン場はCo1161先のコルの斜面を整地して作った。風はそこまで強くないが念のためブロックを積んでおく。

4/6 しおり橋(9:45-10:00)-Co1161 先コル C1(15:30)

7日は、冬型の気圧配置が想定され、三眺山より上はガス、風も強いと判断し、停滞を決める。

4/8、朝3時に起き今日はアタックする旨確認する。

東稜の下降を安全な時間帯で行いたかったなので、なるべく早く高度を上げていく。

三眺山で小休憩。仙法志も見える。三眺山の下りはかなり危ない。

垂直近いところをバックステップで下りなければならないので注意が必要だ。



7:30、ダイレクト基部に着き、1p目は私がリード、相方にビレーしてもらおう。

1p目、森。簡単な斜面を上った後20mほどの垂直の雪壁となる。

岩の上に30cmくらい雪が付いており、除雪しなければ、上がることもできず除雪をすれば永遠にアックスを振り続けなければならない。雪は半分氷のようでブロック状に切り出すこともできず、途中で腕がつり、激痛が走る。上部に行けば行くほど立ってくるが、全身ビショビショになりながら何とか抜けてアックスビレー。

2p目、高橋。40m。リッジ上に出てアックス埋めてビレイ。あまりピンは取れない。

3p目、高橋。45m。ナイフリッジと、数カ所かぶったリッジ上に行く。こびり付いたエビのシッポに頭上を抑えられながら必死に氷を叩き壊す。ピンの取れる所を探すが出てくるのはペロンとした岩かもろもろの土塊でイボイボを叩き込んでもことごとく抜けてしまう。予想以上にシリアス。何とか見つけた岩に大三さんから借りたユニバーサルハーケンを打ち込み、不安定な雪にバランスで何とか攀じ上がり、雪稜を進んで北稜合流手前でハイマツを発掘しビレイ。

ビレー中はとても寒くガタガタ震えながら相方のコールを待つ。ダイレクト部分を抜けるとそこは北稜上だった。



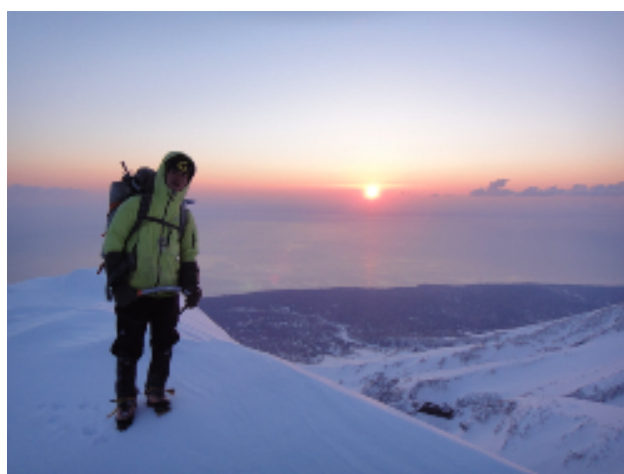
14:20、本峰到着。顔がぐちゃぐちゃ。ここまで時間をかけすぎてしまった。全身が濡れてしまい体を動かすのが精一杯で東稜の下降を考えると気が滅入ってしまった。頂上から東北稜も見えたが、また登り返す力が残ってないように思えた。相方に謝り、自分の気持ちを説明した、もうここからは付いていくのが精一杯で自分の山行ではなくなってしまう、北稜を下降しても良いかと。一番は今の状態では危険、リスクが高いということ。継続はできなかった。この日は小屋で一泊。

4/8 C2(5:15)三眺山(6:20)長浜D取り付き(7:20-45) N峰(13:30-50)本峰(14:20)長官小屋(15:30)小屋には、シンガポール人で写真を撮りにここまで来た Rui がいた。彼を Be careful! と送り出した後、暖かい物を飲み暖をとる。用を足すときに見ると息子が軽い凍傷になっていた…



4/9C3(5:00)キャンプ場(6:30)フェリー(7:30)

継続できなかったことは悔しくて涙が出そうだったが、自分自身を冷静に判断できたのは良かった。継続できないことよりも、誤った判断をする方がはるかに良くないことだ。私は弱く今回も条件がどうか言い訳をしたい気持ちもあるが、どういうトレーニングを積み重ねれば強くなれるのか、それは分かったような気がする。己の弱点と向き合えなければ、登山者としてこれから前進できないだろう。プレから本番までを通して、それ以前と比べると多くを学んだし成長できた面もある。それをこれから活かすも活かさぬも自分次第、また欲が出てくるまでしばらくはゆっくり登ろうと思う。



記：森